

祝・新成人 ✿ わかたけ会 濱元 匠さん

本人の幼少期について:音楽やダンスが大好きでした。兄のことが大好きで、優しい性格です。ぐずることも無く、手のかかることがほとんどありませんでした。事業所での思い出:研修旅行も楽しく参加できたこと。これからの目標や希望:食事に興味を持っていっぱい食べてほしい。これからも毎日元気に楽しく通所してほしいと願っています。(親御様より)

【わかたけ会の“お楽しみ行事”に参加して】



～✿～✿～✿

祝・新成人 ✿ わかたけ会 澤井 映里奈さん

幼少の頃は心臓に穴があいていて、定期検診。しょっちゅう滲出性中耳炎になって耳鼻科受診。軽い難聴で定期検診。高2の夏休みに手術を受け、装具を外すことができましたが、今は術後の定期検診。弱視予防のために、3歳から8歳まで眼鏡をかけ、定期検診。

生まれつき歯が足りないことと、噛みあわせが合っていなかったため、歯の矯正。嫌がって治療が難しく、途中で諦めかけて、2～3年、中休みをしましたが、初診から10年かけて…終了しました。



【高2の夏休み/手術頑張りました】

矯正の終了後、先生から「良く治療をつづけられたね～」と労いの言葉をかけてもらい、私の勝手に中休みをしてしまったことに罪悪感を感じていたので、気持ちが軽くなりました。

マイペースで、いたずらっ子で、可愛いのだけれど…スクールバスの座席の下をくぐって運転席まで移動したり、靴を電車とホームの間や、田や池に投げ入

【生後5か月、小学生の姉と「咲くやこの花館」にて】



れたり、自分の鼻の下に太ペンで黒々と髭を描いて笑っていたりとビックリさせられる行動が多かったけれど、ありがたいことに“面白くて可愛い”と思われ、私や映里奈が知らない、学年を超えた子どもたちや、先生方に名前を覚えてもらい「えりなちゃん、アウト～」 「あかんでー」などと声かけをして可愛がってもらいました。(小1の子に声かけされているのを見た時は、さすがに笑ってしまいました。)

映里奈が生まれた時、ダウン症の知識が無く、親としてどのように子育てをしていけば良いのだろうかと思いつつ、何も考えることができず、煮え切らない私に、保健師さんや更生療育センターのケアマネージャーさんが「ダウン症児を育てているお母さん達と一緒に子育てをしましょう。」と熱心に声をかけていただき、断りきれずに週3回の母子通園に通うことになり2年通いました。

療育クラスのお母さん達と一緒に、行事や勉強会に参加するうちに私も学生気分になり、少し子育てを楽しむことができるようになりました。体力は削られ、疲れ切っていましたが…。

【3歳(キンダーハイム) 脊髄を傷めないように手作りの水泳用具で】



映里奈には、二人の姉がいます。年子ではなかったのですが、ヤキモチは焼かれず助かりましたが、どうしても妹に手が届く様子を見て、二人とも「甘えられないな」と感じていたようです。